

全学ゼミ「地球温暖化と経済学」 夏学期レポート 山口光恒

下記から 1 問選択。選択した問題の番号を明記すること。

字数は 4000 字以上 10000 字まで

参考文献を必ずあげること

必要に応じて図表の挿入は自由

締め切り日は 8 月 9 日 (火)

提出はメール添付で、その際電子ファイルの題に諸君の名前を入れること

1、環境政策の手法である排出権取引と炭素税の理論と実際について、政策手法の判断基準に従って比較・検討し、諸君の意見を述べなさい

2、気候変動枠組み条約第 2 条の究極目的とはどのような水準か、いくつかのアプローチを示し、諸君はどの考え方に与するかについて理由を明らかにして述べよ。また、その場合、温暖化対策の究極的目標としてどの濃度あるいは気温上昇が望ましいのかにつき諸君の意見を述べなさい

3、温暖化対策の原則の一つである **Common but Different Responsibility** の内容を説明し、今後温暖化対策を進める上で、この原則をどのように解釈すべきかについての諸君の意見を述べなさい

なお、ある程度調べた上で、それ以上の参考文献を知りたい場合にはメールにて照会を受け付ける。

\*\*\*\*\*  
レポートの最後にページを替えて授業全体の感想を自由な形式で書いて下さい。後ほど、名前を伏せて先生のホームページへ掲載します。

(ホームページの「東京大学教養学部 全学ゼミ」に掲載されている「受講生の感想」と同じ形式で掲載されます。)

\*\*\*\*\*